

家父長制 P4

世帯の長である家長、男性に資源と権力が集中する制度。

封建的 P4

身分制や主従関係のような前近代的なありさまをいう。

LGBTQ P5

LGBTQとは以下の頭文字をとった略語で、性的少数者を表す総称の一つとして使われている。

Lesbian レズビアン 女性同性愛者

Gay ゲイ 男性同性愛者

Bisexual バイセクシュアル 両性愛者

Transgender トランスジェンダー 身体の性と性自認が一致しない人

Questioning クエスチョニング 自分の性別や恋愛対象がどちらか判断できなかったり、どちらかに決めたくない人などを指す。

Queer クィア LGBTなどの性的マイノリティや既存の性のカテゴリーに当てはまらない人の総称・言葉。
(女性にも男性にもはっきりと当てはまらない性自認している人を包括する言葉として用いられる。)

● **性を考える4つの視点**

女／男だけでは分けられない！ 性のあり方は「グラデーション」

からだの性 (身体的性)

戸籍に記載されている身体の構造上、生物学的な性。

好きになる性 (性的指向)

自身の恋愛対象が、同性・異性、どの性別に向いているか。

こころの性 (性自認)

からだの性に対し、自分がどちらに当てはまるか認識し、生きていくための性。

表現する性 (性表現)

言葉遣いや見た目・仕草など、社会的に自分の性をどのように見せるか。

ルッキズム P6

日本語では、「外見至上主義」という。外見のみを重視して、容貌や容姿を理由に差別的に扱うこと。

2018年発行の広辞苑第7版には採用されておらず、2021年の三省堂国語辞典第8版に新語として収録されている。

人生は山あり谷あり、泉あり。
おともさせていただきます。



人生の案内人「アントニオ」

ぶっく
ばらんす7号

60's × Gender

2025年

発行年月 / 2025年3月 design & illustration WHITE-SHIPS

【編集・発行】

公益財団法人 新潟県女性財団

〒950-0994 新潟県新潟市中央区上所2丁目2-2
新潟ユニゾンプラザ2F / 新潟県女性センター
TEL 025-285-6610 / FAX 025-285-6630
E-mail npwf@npwf.jp



新潟県女性財団

新潟県女性財団ホームページ
<https://npwf.jp>



●『ぶっくばらんす』は、(公財)新潟県女性財団が発行する男女共同参画ハンドブックシリーズです。

60'S

・・・そういう時代でしたよね？

60代11人にインタビュー！

Gender

<60代×ジェンダー>



一筆啓上申し上げます。

私、公益財団法人新潟県女性財団が発行する『ぶっくばらんす』で、人生の案内人をしておりますカメレオンのアントニオと申します。縁あって、『ぶっくばらんす』の制作に関わっております。

新潟県女性財団は、性別にかかわらず、一人ひとりが尊重され、自分らしく生きられる社会づくりを目指しており、いろんな切り口で「男女共同参画」や「ジェンダー」について考えていただけるよう日々、努力しております。

『ぶっくばらんす』は男女共同参画ハンドブックで、令和5年度からは、年代ごとに、同じテーマでインタビューをし制作しております。(ぶっくばらんす6号は20代、7号は60代にインタビュー)

60歳は、「還暦」「定年」などと人生の節目を迎える年齢と世間では言われておりますが、60歳、いえ60代は、まだまだ現役でございます。

「次の世代にバトンを渡す」これから生きる人たちに、何を手渡すか？

酸いも甘いも経験されてきた60代のインタビューを元に、一緒に考えていただけたら幸いです。

敬具



人生の案内人
「アントニオ」

もくじ

P2 あの頃
「こんな時代に働いていました」

P6 ルッキズム
「ルッキズム」を知っていますか？

P3-4 家族
「家族」が変化していると言われてますが、それって本当ですか？

P7-8 特集 老い
あなたにとって「老い」とは

P5 LGBTQ
「身近にいないから、わかりません」

P9-10 視点
「なんで昔に戻れましょう」
職業・親業・主婦業から卒業して得たご褒美の時間

◆ テレビCM「24時間働けますか？」と同じ働き方をしていた。

みんながそうだった。家族写真には、自分は写っていなかった。(男性)



◆ 共働きだった。妻と私の母で子どもの世話をしていたので、私は、働きに行くしかなかった。本当は子育てに関わりたかった。(男性)

◆ 上司は豪快な人が多く、罵詈雑言は当たり前のようにあった。荒っぼいけど、面倒見がよかったから、やってこられたかな。(男性)



◆ 仕事のミスや残業は、「女の子だから」と許されていた。(女性)

◆ 「結婚しますが、仕事は続けます。」と挨拶したら、「えっ！」と驚かれた。(女性)



◆ 「寿退社」は死語でしょうか？当時は、結婚したら仕事を辞めるのは、暗黙の了解で自分自身もそういうものだと思っていた。(女性)

◆ 最初に覚えた仕事は、職場の人のお茶とコーヒーの好みだった。毎朝、デスクの灰皿も片づけていた。(女性)

◆ 職場で、たとえお尻を触られたとしても騒ぐのではなく、愛嬌で受け流すのが「オ・ト・ナ」とされていた。(女性)



あの頃



「こんな時代に働いていました」

「時代の変化を感じる今日この頃です。」

第2の職場 「今って、
そう言うんだ？」

威圧的に接しないと心に決めて、第2の職場をスタート。が！仕事をお願いした時に「それ、私の仕事ですか？」と言われた。「今どきの〇〇もんは！」と思わず言いそうになってしまった！！

定年退職 「このままで
終りたくない」

退職後、習い事やボランティア等をいろいろやったが、なんとなく満たされない。「人の役に立っているか」「必要とされているか」とても気になる。60代になっても生きがいを追い求めている。

再雇用 「手取り足取り？
「背中を見て学ぶ？」

先輩から骨の髄まで、仕事のやり方を叩き込まれた。次の世代には、自分たちのノウハウを伝えるより、対話しながら新しいやり方を一緒に創っていきたく思っている…が…。

「家族」が変化していると言われてますが、 それって本当ですか？

どんなふうに変化しているのか、それは私たちにどのような影響を与えているのでしょうか。そもそも「家族」とは何か、私にとってどのような存在なのか、「家族」にまつわるあれこれを考えてみました。

こんな経験ありませんか？

親戚が集まった席で「カレシ・カノジョできた？」
「結婚は？」「子どもは？」と話題にされることがあるけど…



若い人と話すきっかけ
が欲しいんだよね
「キレイになったね」
「やせた?」「太った?」
外見のこともNGペロ

例えば「最近どう?」つ
て聞いてくれればいい
んじゃない?
そっけない返事が返っ
てきても「ガンバ!!!」

60代はこう答えました

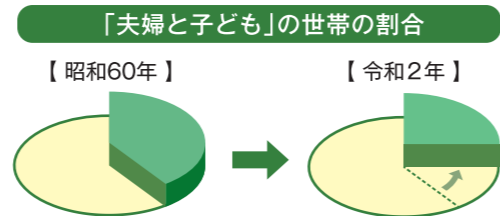
- 「結婚して子どもが生まれることだけが幸せだ」と思っているのでは?(女性)
- 心配しているわけじゃなく、挨拶の延長じゃない?中にはイジワルで聞く人もいるかも。(女性)
- 子どもがいない夫婦に「子どもは?」と投げかけ不穏な空気になった。言った本人からしたら悪意はない。その時代、その環境で育ってきたから、挨拶くらいの考えで言っているのだと思うよ。(男性)
- 昔からの価値観で言っていると思う。今は多様化しているので自分は言わないけどね。(男性)
- ただの雑談のネタなんじゃない?(男性)

「幸せ」=「家族」なの?

家族の姿は変化

昭和60年に全世帯の4割を占めていた「夫婦と子ども」の世帯は、令和2年では全体の25%。単独世帯とひとり親世帯が全体の約半数を占めるようになった。

出典：令和5年版「男女共同参画白書」(内閣府男女共同参画局)
https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r05/zentai/pdf/r05_print.pdf を加工して作成。



60代が見てきた「家族」

- 実家は田舎で家父長制もあり、封建的。父親は家の中で一番だと思っていた。(男性)
- 父が一番。テレビのチャンネル権を持っているし、座る場所は上座、とんかつも一番大きい。母は、料理を作ったり、父に怒鳴られたり、姑にも気を使っていた。(女性)
- 昭和の三世代家族。男は仕事、女は家事育児。家を継ぐのは長男で大事にされていた。それが当たり前だと疑問にも思わなかった。(男性)
- 「女の子なんだから」と小さいころよく言われていた。家に来客があった時は、「挨拶をする」「お茶を出す」など厳しくしつけられた。(女性)



目には見えないけど、今でも、何となく、残っている。昔のことではない。

用語解説は裏表紙

60代にインタビュー

時代とともに
変わっていくもの、変わらないもの…

あなたにとって「家族」とは?

一緒にいてラク、正直に何でも言える。でもそれなりに気を使う。腹も立つ。(女性)

最終的に残るもの。どんな時でも助け合える存在。(男性)

コミュニケーションをたくさんとって思ったことを何でも言える。(女性)

遠慮なく自分をさらけ出せるが、縁が切れない。(女性)

「無償の愛」見返りなく何でもしてあげたいと思う。輸血や臓器提供も。(女性)

なくてはならないもの、一人では生きていけないので。家族の距離感が大切。過干渉はわずらわしい。(女性)

私の居場所。私がいなければならぬ場所。大切なもの。(女性)


言いたいことが言える。聞き流すことができるのも家族。(男性)

とても大事。ないがしろにしがちな時期もあったけど、それでもかけがえのないもの。言葉に言い表せない関係。(男性)

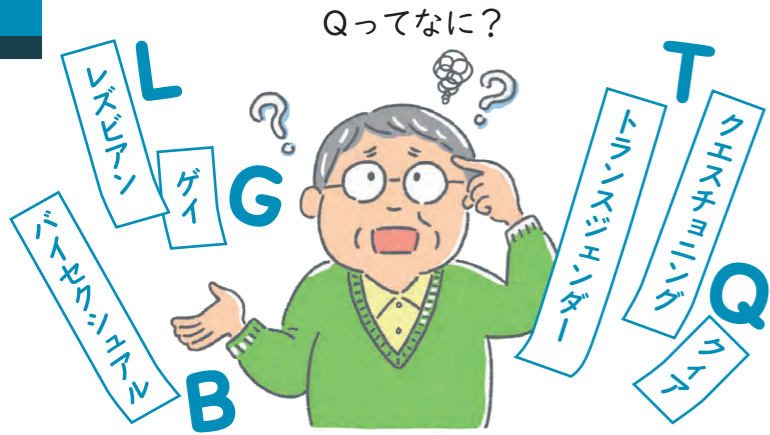
ペットは家族同様。(男性)

困った時に助けてくれる。反面、性格が違うので、自分とやり方が違うとイライラする。(男性)

「身近にいないから、わかりません」

ここ数年、性的マイノリティなど多様な性のあり方が話題になっています。が、そうは言っても「理解できない」「受け入れられない」と感じる人もいます。性は、女/男の2つだけではなく「グラデーション」と言われていて、あなたも私も「グラデーション」の一部です。身近なこととして、考えてみませんか？

細かすぎてチンプンカンプン



Qってなに？

その言葉、実はNGかも…

- ホモ
- オカマ
- オネエ
- そっち系
- レズ
- おなべ
- ニューハーフ
- おとこおんな

×NG

あの人コレじゃない？

これらの言葉すべてが **差別** にあたります！

● 10人に1人がLGBTQ

様々な調査結果から、日本国内LGBTQの割合は約10%※とされており、これは

- ・日本で左利きの人
 - ・苗字が佐藤や鈴木の人
- と同じだそうです。

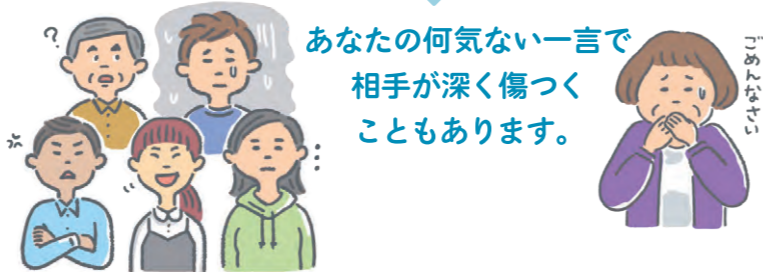
※調査機関・調査方法によって、割合にばらつきがあります。

用語解説は裏表紙


アントニオからのご提案

- 自分が受け入れがたいと思っても、相手の考えを否定しない・価値観を傷つけない。
- その場に当事者がいると、常に想像してふるまう。
- 本人の同意なく他の人に言わない。

“LGBTQ”だからではなく、人は「十人十色」。みんな違って、みんないい！



「ルッキズム」を知っていますか？

今回、お話を伺ったところ、「ルッキズム(外見至上主義)」という言葉が「初めて聞く」「詳しくわからない」と回答した方が多くいらっしゃいました。民間企業の調査でも、言葉の認知度は19%で、男女ともに若い世代ほど認知が高いと言われています。



キッズルームなら、聞いたことあるんだけどね

用語解説は裏表紙

見た目を気にするのは若い世代だけでしょうか!? ～ルッキズムとエイジズム～

60代にインタビュー

いつまでも若々しくいたい。気持ちは30代です。(男性)



同じ白髪でも、女性は「染めたら」と言われ、男性はいぶし銀と褒められる。(女性)

もう見た目は気にしないと云いつつ、最近、お高い美容クリームを購入。美しくありたいと思うのは、年齢関係ないかも。(女性)



「若いわね～」 「あなたの方こそ、若く見える～」 「いえいえ、アナタの方こそ」 いつまで続くこのラリー。(女性)

これは、女性だけ?

わく
「**粹**」でくくらない
決めつけない
押し付けない

例えば、
「いい年してノースリーブはやめて」「もう年だから、こんな服着たら周りからどう思われるか」と言われたり、気になったりしたことありますか？
「年甲斐もなく」「年相応のふるまいを」「もう年なんだから」と、年齢に基づく固定観念や偏見、年齢差別(エイジズム)が、まだまだ私たちの周りにあります。また、私たちが発する言葉や態度が、誰かに影響を与えていることも忘れずにいたいものです。

年相応の身なり・ふるまいは「自分らしさ」とイコールですか？



あなたにとって「老い」とは

この問いに、みなさんしばし沈黙…。
今、感じているひと言を表現していただきました。



経験の積み重ね

挑戦しなくなる

生きていくこと、
流れていくこと

体と容姿は
衰えていくけど、
気持ちは
衰えていない

高学年かな、
人生の卒業も近い

味
なんでも腐りかけが
美味しい
うまみも増すから

体の自由が
効かなく
なっていく

縮充 ※
(しゆくじゆう)

※意味
織物の言葉。隙間を縮めて
固くして充実させる、丈夫
にする、強度を増す。
例えば、縮小した自分を良い
こととして捉える。など

あなたにとって
「老い」とは？

ご褒美の時
これからは
好きなことを
やってもいいよ

熟成

受け入れて、
大人になって
いくこと

老いるのは、生きる意味を知るため

老いに気づく瞬間

- ペットボトルのフタが空けにくい！
百均のオープナーが便利！（女性）
- 夜中にトイレに行く回数が増えて、
なかなか熟睡できない。（男性）
- 夜、目が覚めてなかなか寝付けない…
そんな時は、目が覚めた、ラッキー♪と
気分を変え、読書タイム。（女性）



親の老い

- 親の老いも実感。認知症になり、
逆さまに新聞を読む親の姿を
見てショック。（女性）
- バリバリ働いていた母が、退職後
すぐに体調を崩し亡くなった。
自分がどう生きるか準備が大事
だと実感した。（女性）



目指す老い

- 子どもに迷惑をかけたくないなあ。
健康で寝たきりにならない。（男性）
- ピンピンコロリを目指したい！（男性）



老いの喜び

- 肩の力が抜けた感じ。（女性）
- 周りとのしがらみが無くなって、
自由だなと感じる。（男性）
- 50代から気持ちは変わっていない。
アルゼンチンタンゴ続けています。（女性）



これからの働き方・生き方・考え方

アントニオ
からの
ご提案



- 自分と異なる世代との交流を心がける。
- 新しい知識を得るなど、学び続ける。
- 「面白い」「好奇心を持つ」

編集後記

【インタビューを終えて ～60代の感想～】

- 今までを振り返り、自分のことを聴かれることがうれしかった。（女性）
- こんなに自分と向き合ったことがなかった、初めて考えた。（男性）
- 自分の生き方を問われた気がした。（男性）
- 老いることは悪いことではないと思った。（女性）

【60代は、高齢者ですか？】

「60歳＝還暦＝赤いちゃんちゃんこ」というイメージを持ちながら
お話しを伺ったところ、意外な答えが多く、60代にとって「老い」
はもう少し先のことのように感じました。
また、「身体の衰えは実感しているけれど、気持ちは前向きで
ポジティブ」と語るその表情が印象的でした。

「人はよく若かったときのことを、とくに女の人は娘盛りの美しかったころのことを何にもましていい時であったように語ります。けれど私は自分をふりかえてみて、娘時代がよかったとはどうしても思えないのです。(中略)思えばなさげなくもあさはかな若き日々でありました。…もちろん今の私がもうりっぱになってしまっているといっているのではありません。ただあのころよりはまだまだになっていると思っています。そのまだまだになったというようになるまで、私は20年以上も地味な苦勞をしたのです。失敗をかさね、冷汗をかいて、少しずつ、少しずつ、ものがわかりかけてきているのです。なんで昔に戻れましょう。」

せっかく歳をとってきたのです。なんで昔に戻れましょう。

あと20年経てば80代。その頃にこの人たちはどうなっているでしょう。「家族に迷惑かけたくない」「ピンピンコロリをめざしたい」と答えていますが、ほんとうにフレイル[※]になった時のことを、親世代の老いと死から学びましょう。そして人生を「生き切った」と言いたいものですね。

※フレイル

身体や心の働きや社会とのつながりが弱くなった状態のこと。健康と要介護の中間に位置し、何も対策をしないと介護の必要な状態になる可能性が高くなる。フレイル予防のポイントは「食事」「適度な運動」「社会参加」。

とは思えません。このなかに「働き方」が入っているのは、これからの60代は「働く」ことがメニューに入っているという考え方からでしょう。

60代は仕切り直しの年齢。過去の栄光も業績も役に立ちません。ゆきがかかりやこだわりを捨てれば新しい視野が開けます。地域社会に出てみれば、みんな平場。これまでのおつきあいの作法は通用しません。元の肩書きも名刺も捨てましょう。そしてイヤなことはイヤと言い、やりたいことをやりたいと言って、風通しよく生きましょう。もう出世も村度もしなくていい、世間から「よい嫁」「えらい母」と言われなくてもいい。

せっかくここまで生きてきて、この健康と年齢を得たのですもの、あとはごほうびの人生だと思って、好きなように生きましょう。もう失うものなんてありません。

あなたにとって「老い」とは？の質問にある「経験の積み重ね」や「熟成」「味」はすてきな答え。この年齢になったからわかること、そして許せること、許されること...があります。「ご褒美の時」には同感です。

ルッキズムは知らない？ こんな新しいカタカナ語、知らなくてあたりまえ。わかりやすく「見た目差別」といえばよい。でもこの年齢になれば、顔は美醜より人格ですし、若作りはイタイだけ。だからといって、好きなカッコウして何が悪い、と開き直りましょう。

わたしの大好きな童画家、いわさきちひろさんに、53歳のときのこんな文章があります。

60代。中途半端な年齢です。ひと昔前なら老後でしょうが、人生百年時代、これから10年だって20年だって働けます。それどころか物価が上がり年金が少なくなる今日、元気なうちはいつまでも働かざるをえないかもしれません。

60代。公私ともに人生の転機です。職場から卒業し、「親業」からも卒業する。夫の定年と共に「主婦業」から卒業してもよい。まだ「親業」や「主婦業」から卒業できないとしたら、何か問題があると思った方がよさそうです。

60代。世代的にも過渡期です。男にとっては長時間労働で職場が居場所だった最後の世代。女にとっては三世同居で「嫁」をやった最後の世代。次の世代の女たちはもはや「嫁」の務めを果たしてくれません。

インタビューを見て感じたことは、答えの中途半端さ。これまでどおりの暮らしが続くという期待と共に、あらがいがたい心身の衰えにとまどい、ためらう気持ち。抵抗しながら受け容れるかに見えて、「老い」はまだまだ他人ごと感がありあり。

カメレオンのアントニオくん（それにしても新潟県女性財団のゆるキャラが、なんでアントニオというオスなんだ？）からの「ご提案」は「異なる世代との交流、新しい知識を得る、好奇心を持つ」など「これまでどおりの働き方・生き方・考え方」の延長にあるものばかり。とうてい「これからの働き方・生き方・考え方」

「なんで昔に戻れましょう」

職業・親業・主婦業から

卒業して得たご褒美の時間

上野 千鶴子

● 社会学者・東京大学名誉教授
● 認定NPO法人ウイメンズアクションネットワーク理事長

視点

